

小・中学校の適正規模に基づく学校再編に関する地域懇談会 記録

奥州市立小中学校適正規模等検討委員会

地区名	黒石地区		
日時	平成29年11月7日(火) 18:30~20:00	会場	黒石地区センター
出席者	事務局	教育長、教育部長、学校教育課長、学校教育課長補佐	
	検討委員	委員長 他4人	
	地域住民	21人	
◆主な質疑内容			
(質問)		(回答)	
○適正規模等検討委員会の目的は何か。		○規模についての検討が比重とすると高い。それらをもとに地域の方々と統合等についてさらに検討していきたい。	
○再編等については長い年月が必要であることを考えると、保護者も見通しをもって関わりたい。可能な限り地域懇談会を重ねて、地域の考えを聞いてほしいが、今後はどのような見通しか。		○1回では終わらず、来年度以降も地域懇談会を開催し、3年掛けて適正規模等についての方針を決めていく。将来の学校のあるべき姿を考えていきたい。	
○保護者アンケートの結果は分かったが、現場の先生方はどう考えているのか聞いてみてはどうか。		○先生方は学級の人数等の状況に応じて工夫した指導をしている。適正規模等については、先生方の意見を聞く方法も検討委員会で考えていきたい。	
◆主な意見・要望の内容			
○黒石地区は、PTAの仲がよく、今の状態でうまくいっている。親が学校を支援する体制ができている。また、地域の伝統があり変えることに抵抗がある。お祭りに地元の子どもがいなくなるのは寂しいし、大人と子どもの交流の場が少なくなる。			
○区域外就学について <ul style="list-style-type: none"> ・学区外を簡単に認めてしまうと、学区の意味がなくなる。 ・学区という考え方を検討していく必要があると思う。 			
○再編については白紙ということだが、小さい学校をなくして大きい学校へ吸収したり、統合したりするという考えではなく、地域の活性化を考えると大きい学校を崩す方法もあるのではないか。			
(検討委員より)			
○住んでいる地域は、まとまりがあり、地域での行事も多い。前沢小の統合の際は、地域の行事がなくなるのが心配だった。しかし、地域で会を作り、そこが中心となって伝統芸能等は継承している。子どもたちは、たくさんの子と関わることができて楽しんで生活をしている。			